

保護者等向け 放課後等デイサービス評価表

公表日:R7年3月7日

事業所名: 放課後等デイサービス 多機能型放課後等デイサービスみらいスイッチ神埼第二 対象人数(保護者)15人 回答者数9人 回収60%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ
環境・ 体制整備	①	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9		
	②	職員の配置数は適切であると思いますか。	9		
	③	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9		
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	9		
適切な 支援の 提供	⑤	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9		
	⑥	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9		
	⑦	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	9		
	⑧	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9		
	⑨	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9		
	⑩	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9		
	⑪	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	4	2	3
保護者 への 説明等	⑫	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9		
	⑬	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9		
	⑭	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4	4	1
	⑮	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	9		
	⑯	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9		
	⑰	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9		
	⑱	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	5	3
	⑲	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9		
	⑳	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9		
	㉑	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	9		
非常時 等の 対応	㉒	個人情報取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9		
	㉓	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9		
	㉔	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7	2	
	㉕	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8	1	
満足 度	㉖	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9		
	㉗	こどもは安心感をもって通所していますか。	9		
	㉘	こどもは通所を楽しみにしていますか。	9		
	㉙	事業所の支援に満足していますか。	9		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		みらいスイッチ神埼第二(放課後等デイサービス)				公表日	R7年 3月 10日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		活動内容や利用者の年齢に合わせてグループに分け、少人数でおこなうことでより広いスペースが確保できている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		安全に子どもを見守ることができる人員配置している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	3	手すりや滑り止め、段差のないトイレなど配慮している。	玄関のスロープの設置が課題	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		掃除や消毒を入念におこなっている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		目的に合わせた部屋の使い方ができている。カームダウンスペースとして静養室を準備している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	1		目標設定への参画を更に意識し、継続的な改善につなげる。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		年に一回、評価表を確認し業務改善に向けた話し合いを実施。	今回もアンケート結果を基に保護者の意向を把握し、業務改善につなげていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		職員会議、面談により把握に努めている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	5		現時点では未実施。専門的かつ客観的な立場からの評価は必要と考えている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		年間計画に基づいて毎月、研修をおこなっている。	外部の専門的な研修への参加も積極的におこなっていく。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		HUG、SNSを活用している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		子ども、保護者に対してアセスメントを行い職員からの聞き取りも併せて計画に反映させている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		職員にも聞き取りを行い、一人ひとりのニーズに合わせた計画になるよう検討を重ねている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	2	ミーティングで共有し、常に見ることができるようになっている。	職員全員への周知を徹底する。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	4	医療機関においてウェクスラー式や田中ビネーをおこなっているため、資料として提出してもらっている。アセスメントの精度をあげるため、ツールの使用は重要と考えている。	アセスメントの精度をよりあげるためツールを使用し、客観的数値化を行うことも有効な手段と考えている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		5領域の視点を踏まえたアセスメントを行ったうえで支援目標に向けた支援内容を設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		毎月、リーダーを中心にチームで立案している。またプログラムの担当(主・副)を決めている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		季節に応じたプログラムやレベルを変えておこなうなど工夫している。運動プログラム、製作プログラムにバランスよく参加できるよう配慮している。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		利用者の状況を見ながら適宜組みなおしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		毎日ミーティングで確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		振り返りのミーティングを必ずおこない、日報として記録し、全員共有できるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	1	連絡帳、評価シートに記録し、必要に応じてビデオ検証している。	専門的な分析シートの導入も検討していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		児発管を中心にモニタリング、見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	2	多彩なプログラム活動を意識している。余暇も重要と考えている。	地域交流の機会の提供を増やしていかなければならない。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		スケジュールの中で本人の意見を聞きながら自己選択や自己決定を促すようにしている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		担当者会議で情報共有し、その後、全スタッフに共有している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	2	主治医参加の支援会議も実施されているため、参加しアドバイスを受けている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		相互に情報共有をおこなっている。学校のホームページの確認している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	4	契約後に就学した児童に関してはできていない。就学前の様子については相談支援専門員の方からの情報を参考にしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	3		対象児童はいないが、今後情報提供はできる。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	3		地域の児童発達支援センターの研修の案内があれば職員の参加を促す。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	3	イベント参加時や公共の施設に出かけた際に一緒に活動をすることがある。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	5	関係機関にたずねたところ、地域に協議会がないとのことだった。	機会があれば参加を検討。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		連絡帳だけでなく、送迎時にその日の様子、課題についての報告をおこなっている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		8		ペアトレ実施機関の紹介やペアトレ養成講座の受講をすすめていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		見学时、契約時と数回おこなっている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		計画変更時のアセスメントだけでなく、日頃より対面で話す機会を設けている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		児発管が必ず対面で行い、同意を得よう心掛けている。HUGと紙面の両方で確認していただけているようにしている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		悩み等、相談していただけるよう普段より保護者とのコミュニケーションを重視している。相談を受けた場合、解決策の提案やよりよい助言ができるようスタッフ間で話し合っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	7		今後、開催を望む声があれば検討していきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		疑問質問に対してスタッフ間で共有、検討し迅速に対応することを心掛けている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		月1回、お便り、イベント表を発行し郵送している。併せてSNSでの発信を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		SNSの投稿は特に細心の注意を払っている。書類は施錠し保管している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		直接、電話、HUGなど対象者によって手段を検討している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		8		利用者のプライバシーもあるため、難しい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	4	スタッフは研修、訓練を行っている。	玄関に掲示はしているが周知は不十分である。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		年間計画して行い、防災意識を高めている。BCPに関する研修も年間研修に組み込まれている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		与薬依頼書を作成し必要に応じて、提出いただいている。情報共有できている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		医師の指示書や保護者の情報に基づき、対応している。他児と適度な距離をとっての食事や食後の手洗いの徹底に努めている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		設備の安全点検も定期的にも実施し、子どもへも安全指導している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	2		事業所での安全計画に基づく取り組みの内容等を通所開始時の機会において説明を行い安全性についても周知しなければならない。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		事例を事業所全体で共有し、要因を分析し必要な対策を講じ、再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		社内研修に加え、外部講師にも講義を依頼している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	1	身体拘束をおこなうことはないが、事前に説明している。	現時点で計画に記載している該当児童はいないが、身体拘束をおこなわなければならない状況については事前に把握しておく。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいスイッチ神埼（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	R6年 12月 16日		～ R6年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	R6年 12月 16日		～ R6年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 1月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援の終了後には、職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行なわれた支援の振り返りを行ない、気付いた点等を共有している事。	毎日の支援の終了後、直ぐに良い事も悪い事も意見を出し合い反省する事に努めていて、児童の様子に気を付けて対応している。	今後も反省を活かして、次の支援の際に振り返った事を実践し再度の振り返りを行っていく。
2	定期的に通信等を発行する事や、HP,SNS等を活用する事により。活動概要や行事予定、連絡体制などの情報を子供や保護者に対して発信している事。	日々の支援内容の提供時の様子を各家庭に向けてお知らせしている（HUG）また、定期的なお知らせ以外にも緊急時の連絡、及びSNS等で様々なお知らせ、活動の報告を行なっている。	今後も保護者の希望する情報発信、SNSを含め色々な情報等を提供していく。
3	活動プログラムが固定化しないように工夫している事。	同じ内容の活動であった場合でも、課題の内容を変えてみたり、難易度を変化させていたりしている。また、同じ活動でも企画者を変える等をしているので、活動の内容としては固定した内容にならないようにしている。 また、季節に応じた活動を取り入れたり変化を取り入れたり工夫している。	今後も色々な皆さんの活動プログラムを企画していけるように情報を得ながら動画などを参考にしたりして楽しめる企画を考えていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供を行っていない事。	家族の困り事に対して、話を聞き相談を受ける事は出来ていると思われるが、専門的な知識での適切なアドバイスが出来ていない事もある。 色々な経験などがありベテランのスタッフもいるが十分であるとは言えない。	スタッフを含めて事業所での外部講師を招いたりしながら研修会（家族参加）を取り入れる等の工夫を行なっていく事が必要と思われる。
2	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っていない事。	これまで、事業所内で支援を行ったり、活動を行なう事を重視していた。地域の住民などを招待する等の意識が無く企画も出来ていなかった。	事業所としてどのような運営を行なっているのか、地域の住民を招待する等に関して会社として基本的な検討を進め予算や人員配置などの準備を行なう事が必要と感じている。
3	父母の会の活動を支援する事や保護者会などを開催する等により保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をおこなっているかと言う事。	これまで、父母会というものが存在していなかった事もあり、意識して保護者会を開くなどを計画したり実施することが出来ていなかった。	保護者会を開くと言う事でなくても事業所で保護者が交流する機会が持てるように企画などで工夫していく事が必要と感じる。